



# Arcserve Backup

## 紹介資料

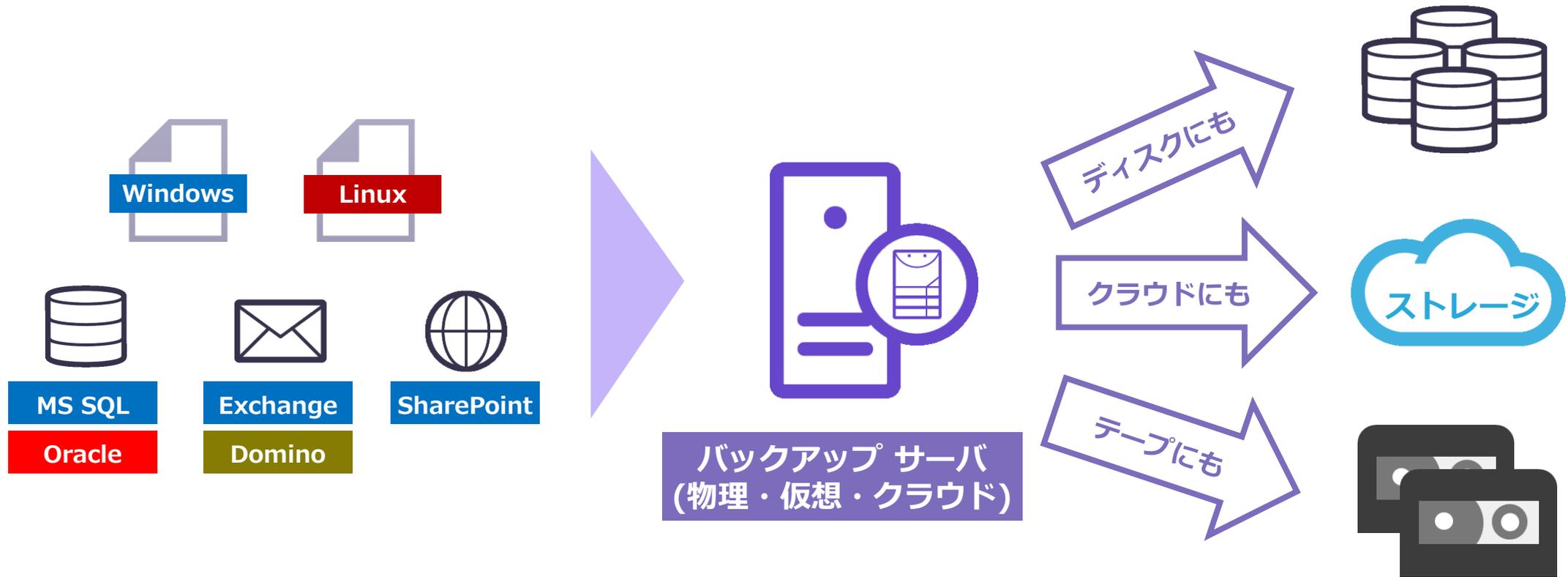
May 7, 2025 (Rev: 2.1)





# Arcserve Backup: データ保護の大黒柱 頼れるバックアップ

バックアップ先を選ばず、  
小規模から大規模まで保護できるファイル単位のバックアップ ソリューション





# 様々な要望に対応できるバックアップ装置



## ディスクベースデバイス



### テープ形式:

ファイル システム デバイス  
(FSD: File System Device)



### 重複排除:

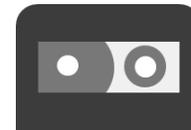
データ デデュープリケーション デバイス  
(DDD: Data Deduplication Device)



## クラウド デバイス

### クラウド ストレージを利用

Amazon S3, Microsoft Azure Storage,  
国内クラウドベンダー (動作要件参照)



## テープ デバイス

### 単体テープ装置

### テープ集合装置 (VTL 含む)

ライブラリ, オートローダ, チェンジャ

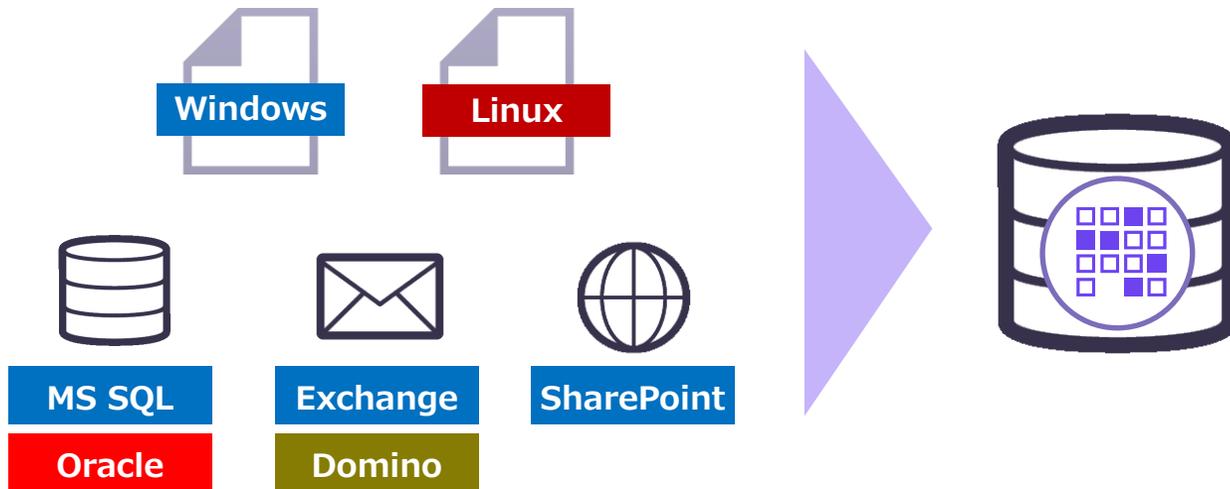


# 重複排除でバックアップデータを大幅削減

## 排除率の参考値 (お客様平均値)\*

初回のフルバックアップ: **25%** 削減

2回目以降のバックアップ: **93%** 削減



すべてのエージェントに対応  
(OS, アプリケーション)

誰でもできる簡単な設定  
(重複排除デバイスを選ぶだけ)

追加費用の発生しない標準機能

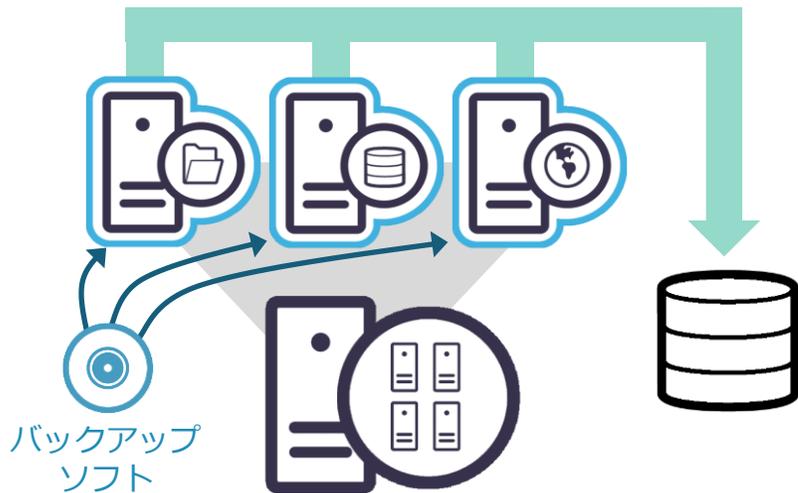
\* 排除率はデータによって異なります



# 仮想環境での簡単なバックアップと復旧

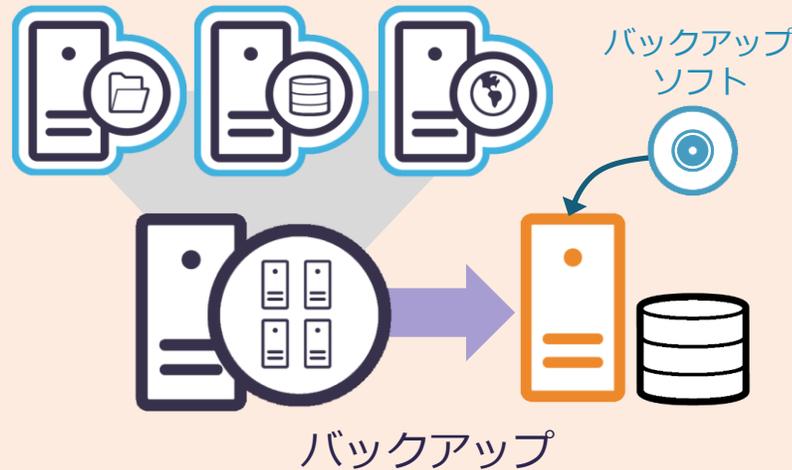
ご利用環境にあわせ、2つのバックアップ手法から選択

## エージェントベース



各ゲストにソフトを導入、  
LAN 経由でバックアップ

## エージェントレス (おすすめ)



仮想独自のバックアップで  
仮想マシンへの導入工数を削減

仮想ホストから取得  
vSphere: VADP  
Hyper-V: VSS

ファイル復旧  
(Windows VM)

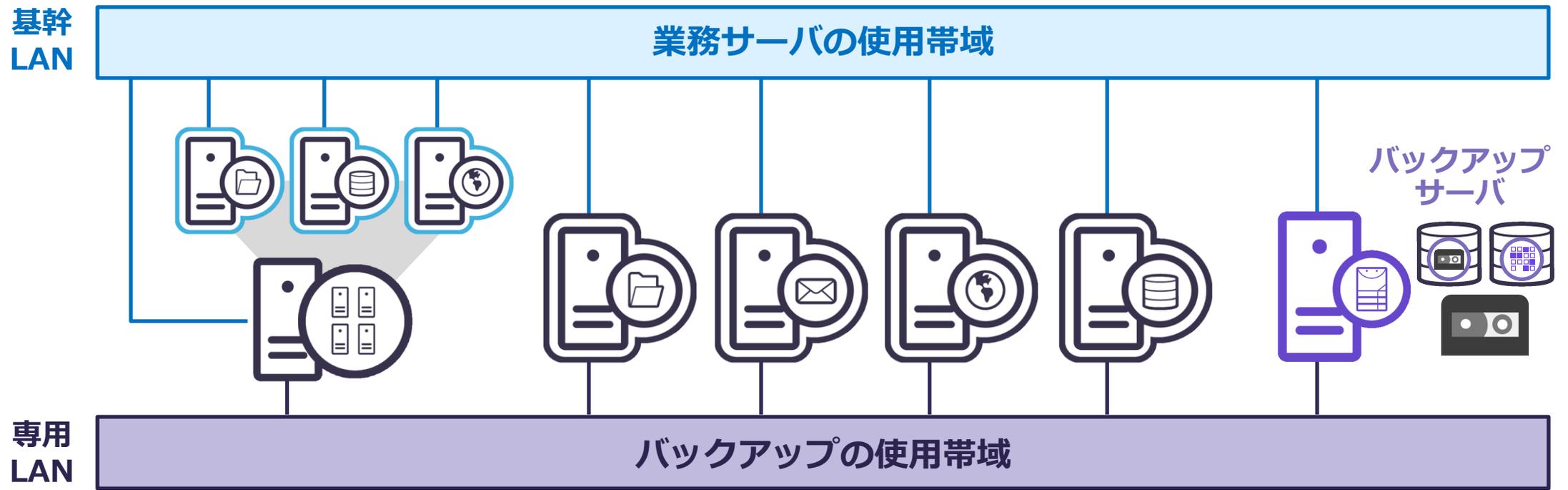
最短3ステップでできる  
簡単な復旧



# バックアップ専用回線で業務サーバの帯域を確保

## バックアップ データ送信用のアドレスを設定

複数のアドレスも設定可 (複数アドレスの場合はラウンド ロビン方式で順々に利用)





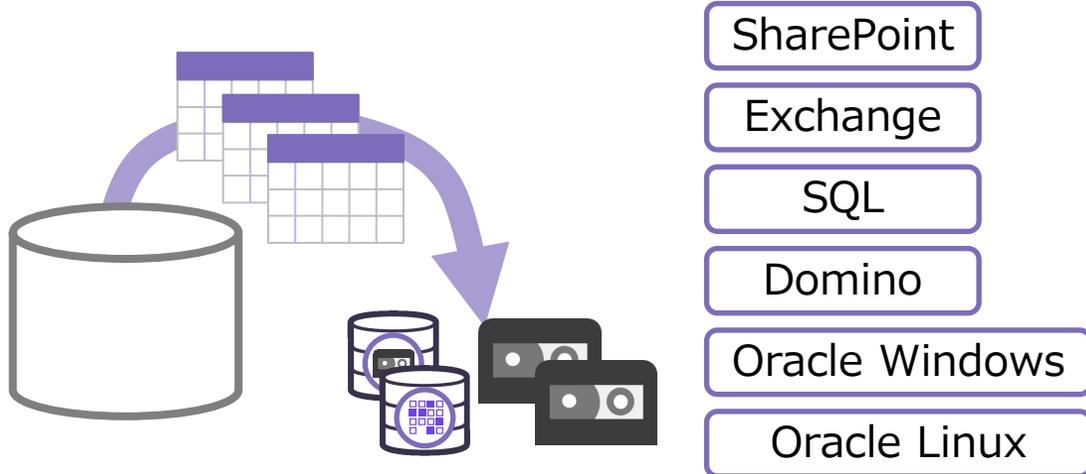
# 整合性の取れた状態でオンライン バックアップ

## 用途に合わせた2種類のバックアップ手法

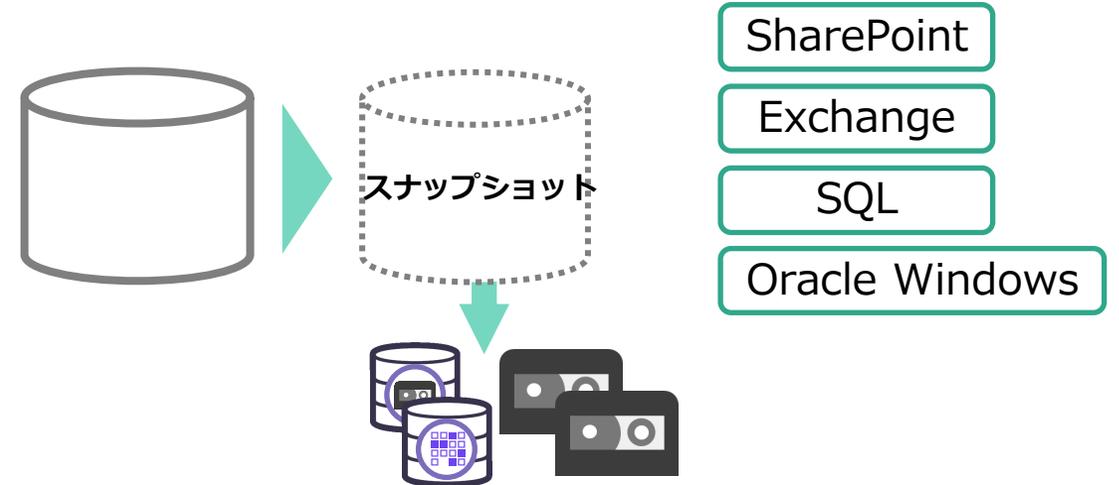
API: 差分/増分、高可用性対応など、アプリケーションと密に連携

VSS: 単純構成のアプリケーションを全体的にバックアップ

### アプリケーションの API を利用 \*1



### アプリケーション用の VSS を利用 \*2



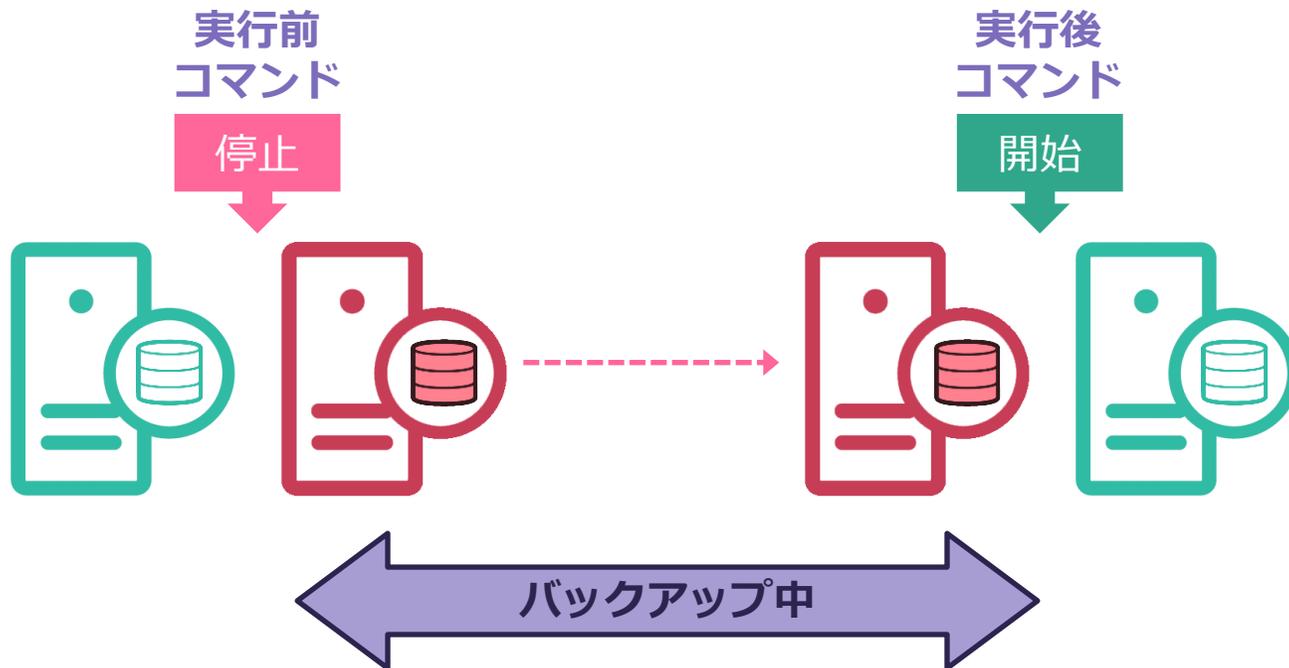
\*1 各アプリケーション用のエージェント製品で対応

\*2 Agent for Open Files で対応



# 静止状態で整合性を確保してバックアップ

## 実行前/後のコマンド実行でアプリケーションの停止と開始を実行\*



コマンド結果 (リターン コード) から  
バックアップ処理の実施判定

実行失敗を防ぐ  
コマンド実行ユーザ指定

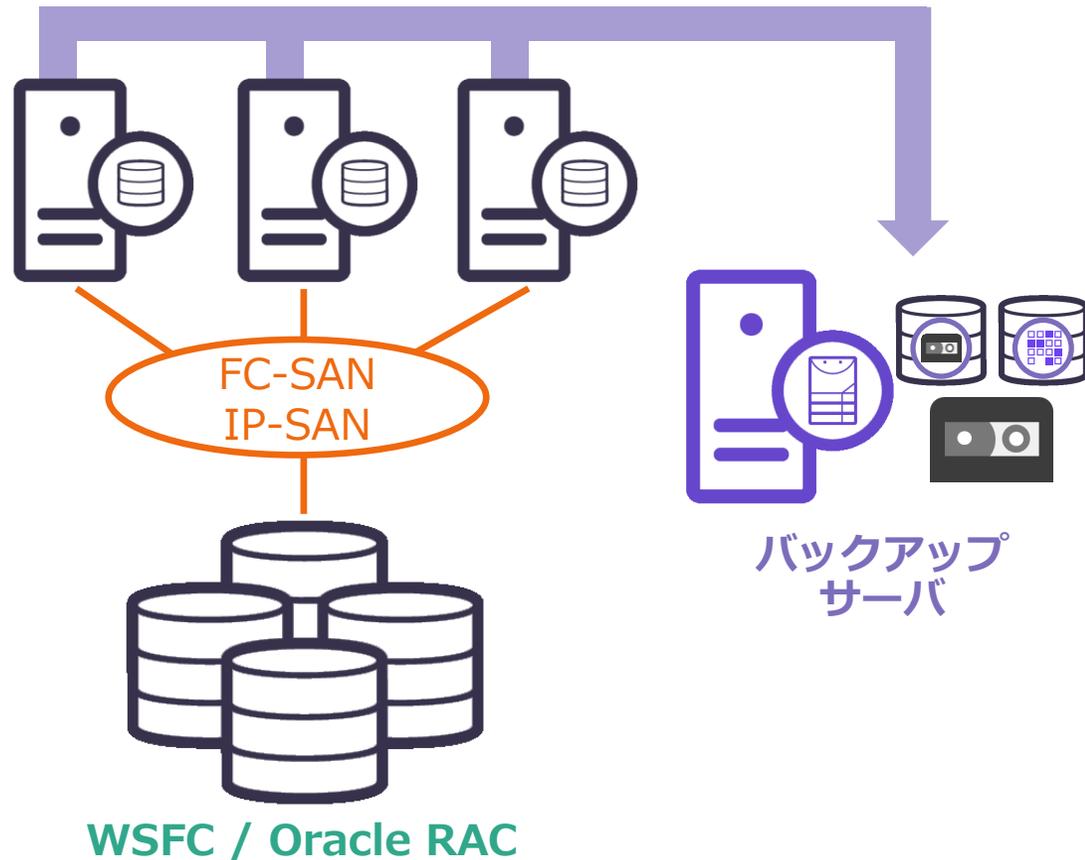
バックアップ結果による  
実行後コマンドの実施判定

\* 利用者側で用意されたコマンドをフルパスで指定



# クラスタや高可用性環境でも安心のバックアップを提供

## 高可用性環境でも起こりうるデータ損失のリスクに対応



WSFC / Oracle RAC

### WSFC

あらゆる障害ケース (部分損傷/全損) を網羅

クォーラムのバックアップ / 復旧

バックアップサーバのクラスタ化\*にも対応

フェイルオーバー後に各ジョブの自動再実行

### Oracle RAC

Windows / Linux に対応

Arcserve Backup の UI からスケジュールを設定

### Exchange DAG / SQL Always On

バックアップ取得元を選択

コピー (デフォルト)、もしくはプライマリ から選択



# Active Directory を最小限の影響範囲で復旧

## 複雑な要素が絡み合った AD を最小単位で復旧



オブジェクト レベル  
リストア



Active Directory

### リストア可能なオブジェクト

- Organizational Unit
- User
- Group
- Computer
- Contact
- Connection
- Shared folder
- Printer
- Site
- Site container
- Site link
- Site link bridge
- Site settings
- Subnet container
- Trusted domain
- Configuration class
- Lostandfound class
- Builtindomain class
- Dnszone class
- Domain class
- Domaindns class
- Dmd class
- Organizationalunit class
- Containerrecifiers class



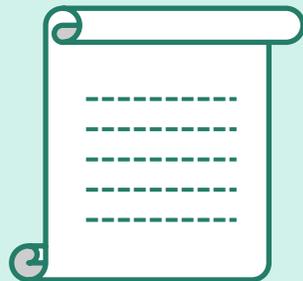
# コマンドラインで管理系ソフトと連携

## 2種類の方法でジョブ ネットへの組み込みに対応

ジョブ ネットへの組み込みで一連のフロー (前処理 > バックアップ > 後続処理) で実施  
ジョブ結果 (リターン コード) の受け渡しで後続判定可

### スクリプト実行

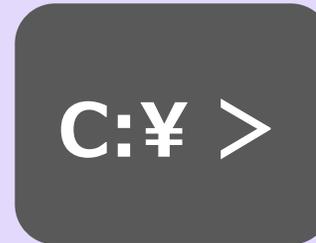
Arcserve Backup の UI で  
バックアップ設定をスクリプトとして保存



保存した  
スクリプトを実行  
(cabatch コマンド)

### コマンド実行

各種コマンドに必要なパラメータを設定



- バックアップ (ca\_backup)
- リストア (ca\_restore)
- テープコピー (tapecopy)
- デバイス管理 (ca\_devmgr)

などのコマンドを実行

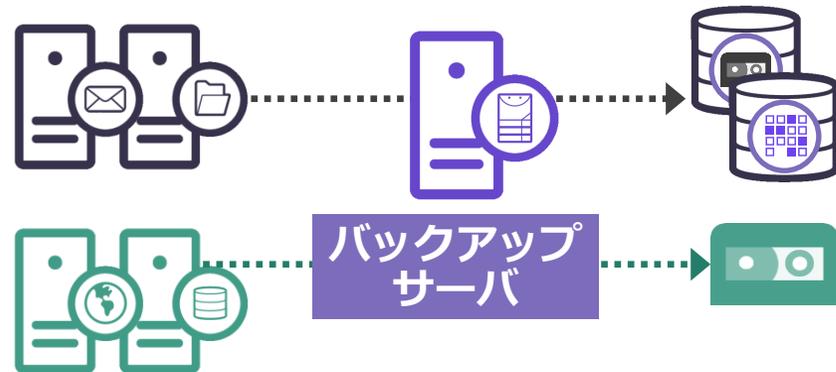


# 並列処理でバックアップのスピードアップを実現

## 複数のバックアップ先へ並列処理\*

### パラレル/マルチ ストリーミング (選べるバックアップ装置の組み合わせ)

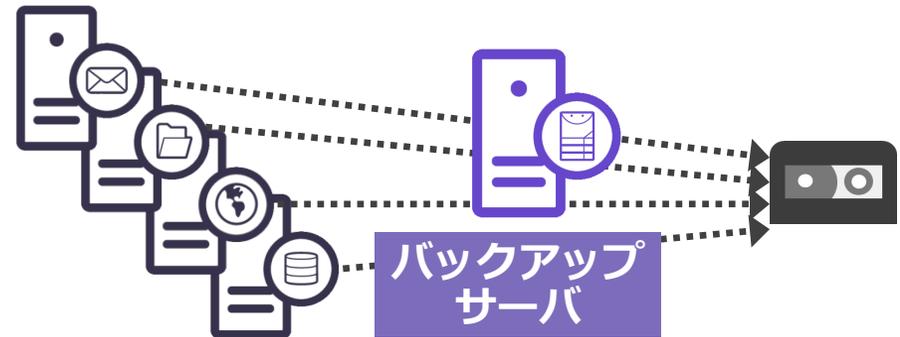
テープとディスクなど、種類の異なる装置の組み合わせでも並列処理を実施



## 1本のテープへ同時書き込み\*

### マルチプレキシング

同時に複数のノードから同じテープにバックアップを実行し、処理速度の速いテープを効率的に利用



\* どちらの機能もバックアップサーバ自身のバックアップではドライブ単位で分割



# 様々なバックアップのセキュリティ機能を装備

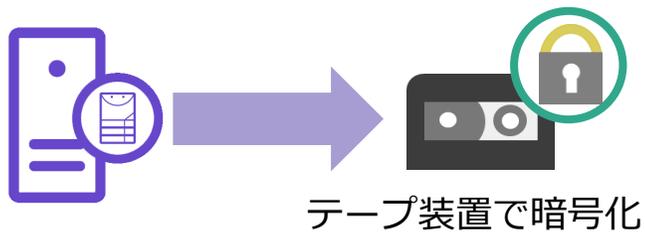
## バックアップデータの暗号化

個人情報保護法やマイナンバー対応で重要なデータの流出を防止

### ソフトウェア暗号化

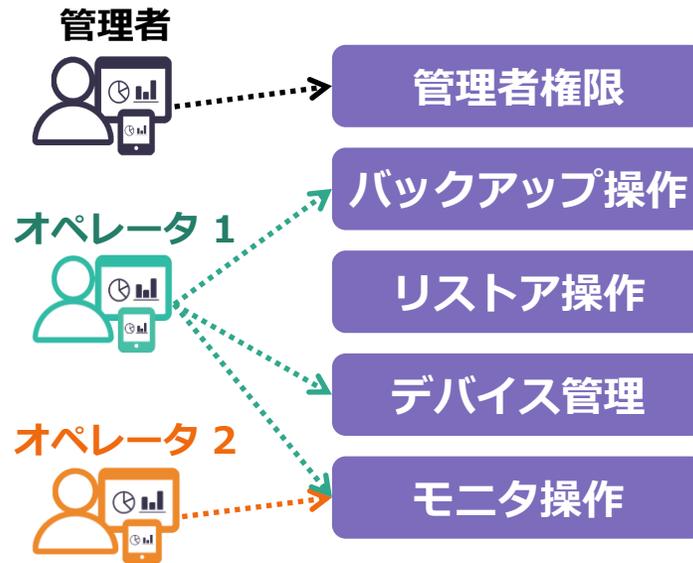


### ハードウェア暗号化



## 役割ベースの権限付与

本番データのコピーを作成する重要なバックアップシステムにアクセス可能なユーザの権限を定義



## 監査証跡

改ざんが出来ない監査ログですべてのユーザ操作を記録、データ流出時の原因確認ツールとして利用可

### 監査ログ

監査成功	X X X X
監査失敗	X X X X
監査成功	X X X X





## [参考] バックアップ スケジュールの設定例

Webページのカタログ センターからスケジュール設定例にアクセス

<http://arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center/>



### 概要

スケジュールの基本的な考え方と  
Arcserve Backup のスケジュール設計概要

### 設定例

よくあるスケジュール設定例  
カスタム スケジュール 5例  
ローテーション スキーマ 4例

### 廃棄/保護ジョブ

最初から導入されている  
2つのスケジュール概要と使い方

### Tips

パスワード変更やバックアップ順序設定など  
スケジュールの Tips



# バックアップだけじゃない！？意外に便利なユーティリティ機能

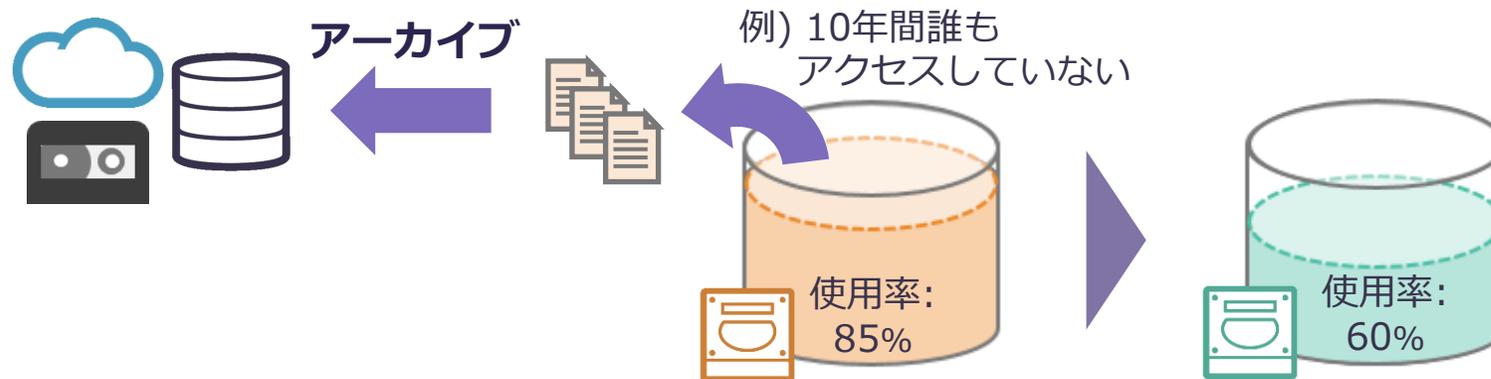
## コピー機能でデータの冗長化を実現

差分/増分もできるスケジュール機能でローカル/リモートにデータを冗長化

ミラーリング設定でコピー元とまったく同じデータを保持 (同期タイミングはコピー実行時)

## アーカイブ機能で誰も利用しない古いデータを移動\*

本番サーバから古いデータを安価な装置 (ディスク / テープ / クラウド) に移動し、空き容量を確保



\* 移動元の本番サーバに対象ファイルのアーカイブ情報を残し、データ移動可



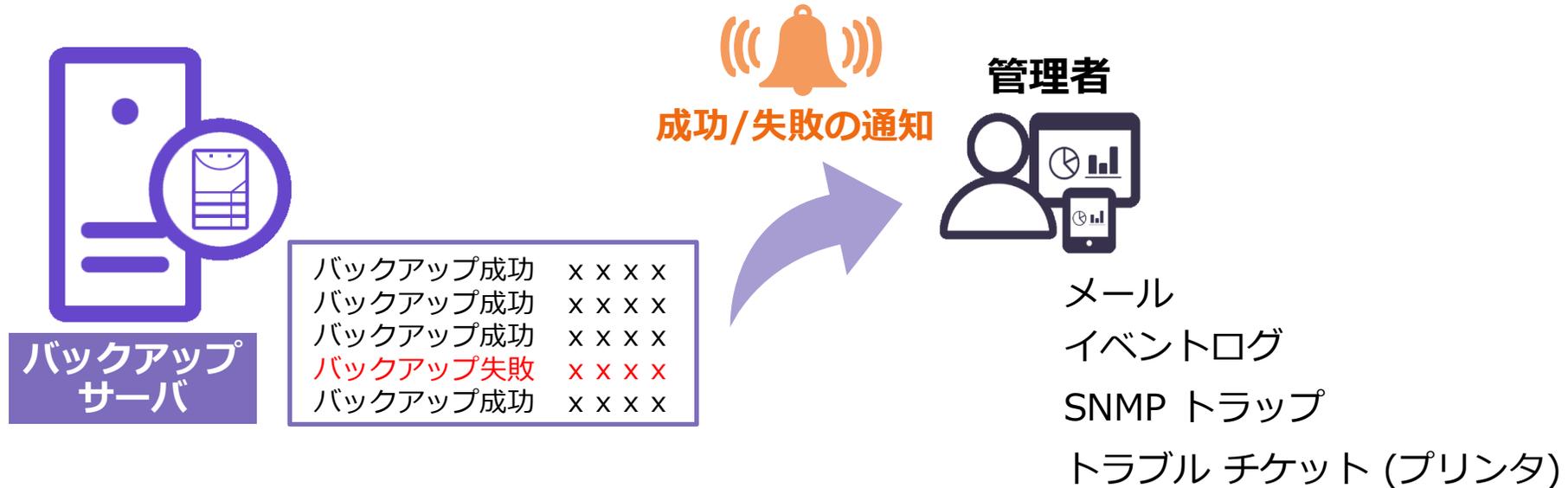
# 処理結果を管理者に通知して確認漏れを防止

## ジョブ結果やログメッセージをトリガーにしてアラートを通知

管理者が普段チェックするメールやイベントログにバックアップ結果やエラー情報を通知

すべての処理 (バックアップ/リストア/コピーなど) でアラートを設定可

処理結果のほか、Arcserve Backup のログに記録されるキーワードでアラート通知設定も可

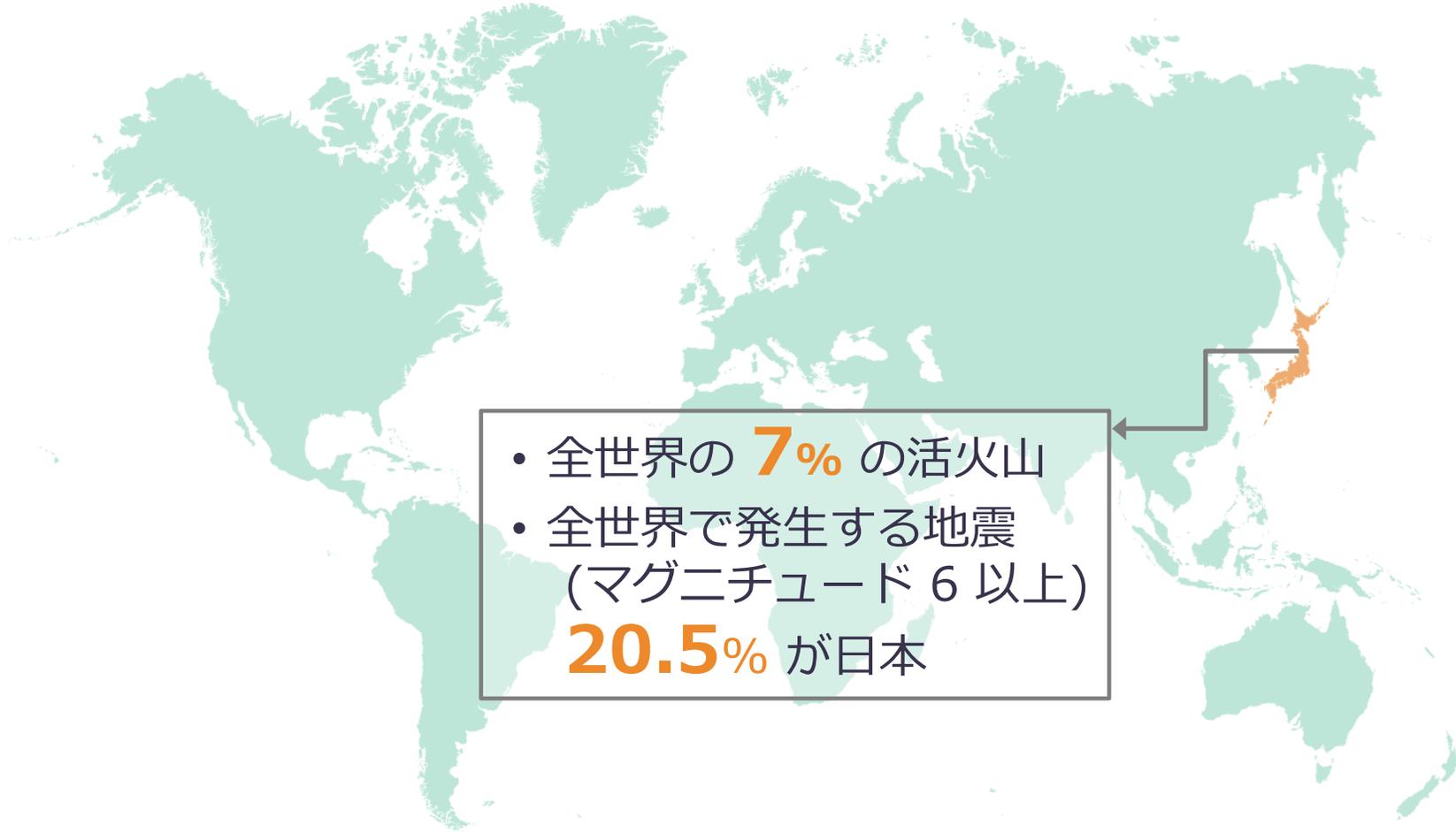




# Arcserve Backup 災害対策ソリューション



# 日本は世界有数の安全でもあり危険でもある国



## 世界一安全な都市:

1. 東京 (日本)
2. シンガポール
3. 大阪 (日本)

## 世界一危険な都市:

1. 東京 / 横浜 (日本)
2. マニラ (フィリピン)
3. 珠江デルタ (中国)
4. 大阪 / 神戸 (日本)
5. ジャカルタ (インドネシア)
6. 名古屋 (日本)

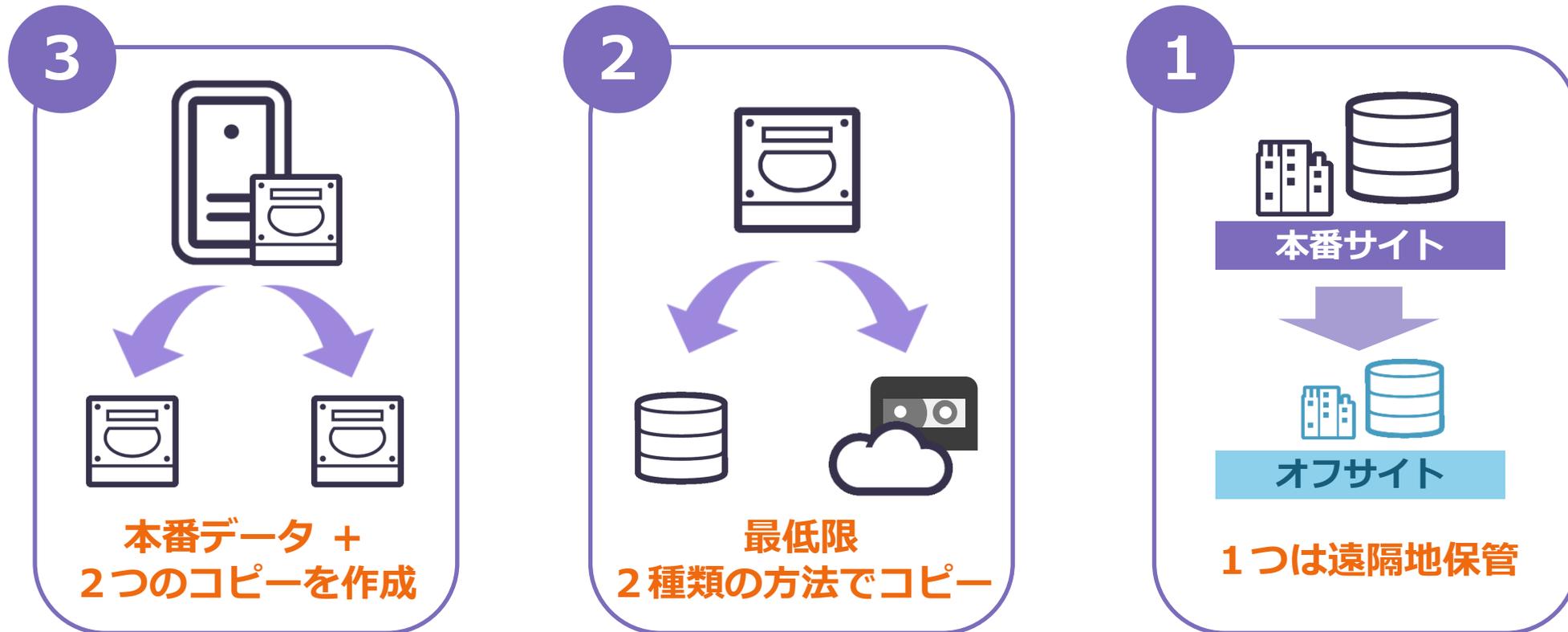
ソース: 英ガーディアン紙 "Which is the safest city in the world?"



# 災害対策のポイントはデータの多重化と遠隔地保管

## バックアップの“3-2-1”ルールを活用

バックアップ データの転送と組み合わせることで災害対策を実現





## 2段階形式のバックアップでデータを多重化

### ステージング処理でバックアップデータのコピーを作成

データの長期保管 / 遠隔地保管として利用

1次領域にバックアップした後、最終装置にバックアップデータをコピー

基本的な考えは、1次領域をディスクに、最終装置としてテープ装置を利用





# Arcserve Backup のステージング パターン例

## D2D2T (Disk to Disk to Tape)

一般的なステージングのパターン



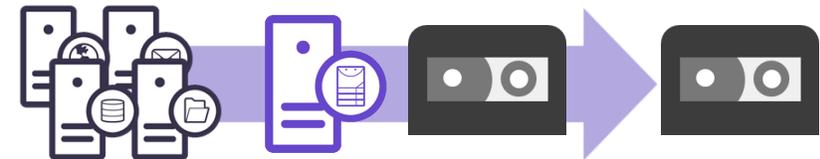
## D2D2D (Disk to Disk to Disk)

ディスク ベース デバイス間でデータ コピー  
1次領域を内蔵に、最終媒体にNAS利用など



## D2T2T (Disk to Tape to Tape)

テープ間でデータ コピー  
メディアをオフィス内と遠隔地保管用に作成



## D2D2C (Disk to Disc to Cloud)

クラウドにバックアップ データをコピー

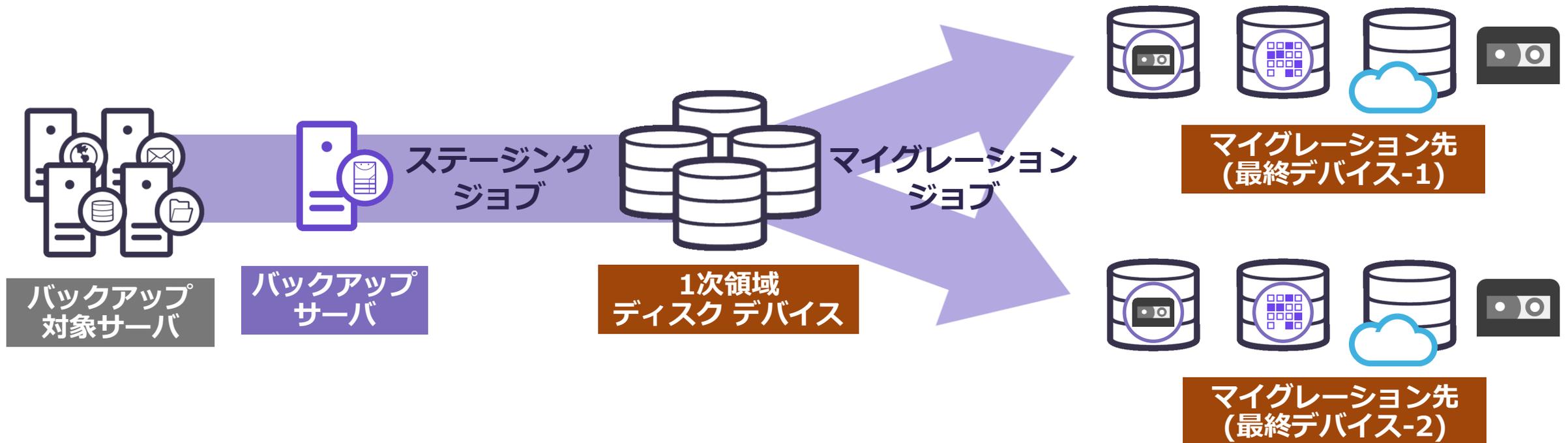




# 広範囲な災害を想定した複数の遠隔地保管

## ダブルテープコピー機能でバックアップデータを3つ作成

長期保管をクラウドとテープ装置の両方に設定





# ネットワーク経由で確実にバックアップ データを保管

## Arcserve Replication との併用で遠隔地にバックアップ データを保管

回線の寸断や断線でも復帰時に転送を自動再開

曜日と時間単位の帯域制御指定で業務への影響を最小限にして転送

ケース1:  
バックアップ データそのものを転送

ケース2\*:  
遠隔地に複製した本番データをバックアップ



\* ケース2はファイル サーバ、Microsoft SQL Server、Microsoft Exchange Server に対応



# Arcserve Backup 災害対策 (クラウド ソリューション)



# Arcserve Backup で実現するクラウド ソリューション

## バックアップ データの保管



### クラウド ストレージへ格納 安価な災害対策

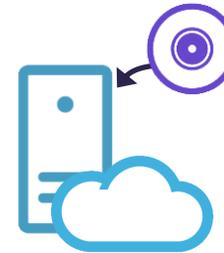
2種類の転送 (D2C / D2D2C)  
差分/増分での転送  
認定済のストレージを利用



### クラウドを使ったテープ運用 慣れ親しんだ運用を継続

オンプレミスと同じ運用を継続  
クラウド保管へ簡単移行

## クラウド VM のデータ保護



### データ損失への対応

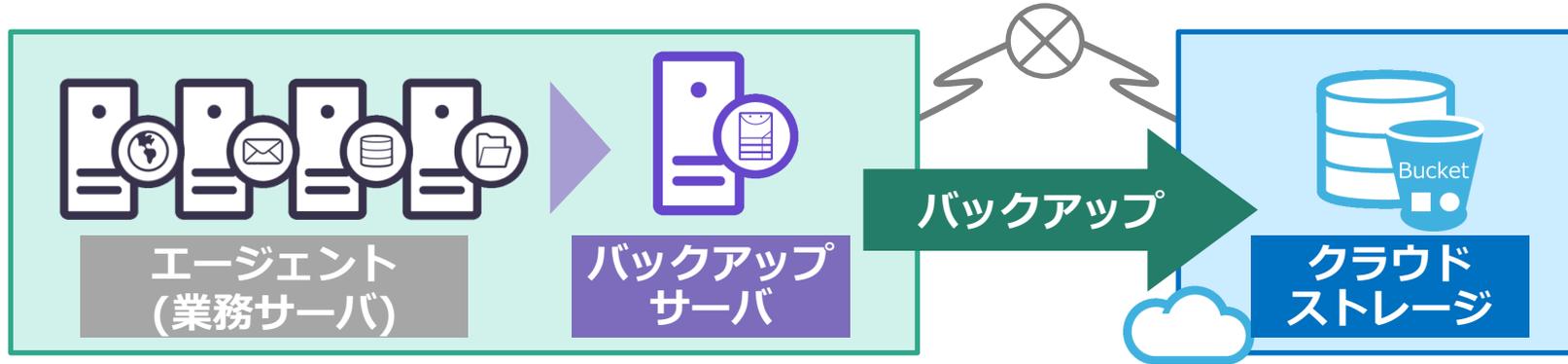
### すべてのクラウドに対応

Arcserve Backup の導入で、  
オンプレミスと統一した保護

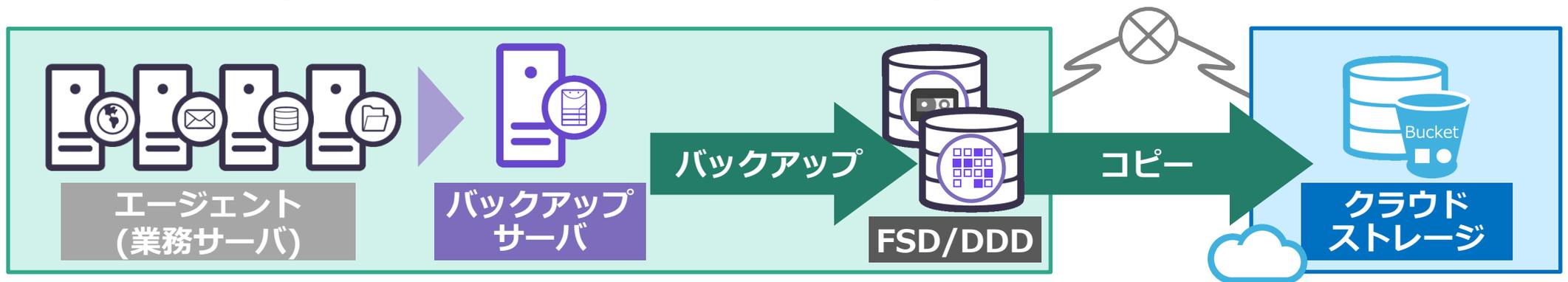


# バックアップ データを災害に強いクラウド ストレージに作成

## 1. D2C方式 (直接クラウドへバックアップ)



## 2. D2D2C方式 (ステージングによる2段階形式)

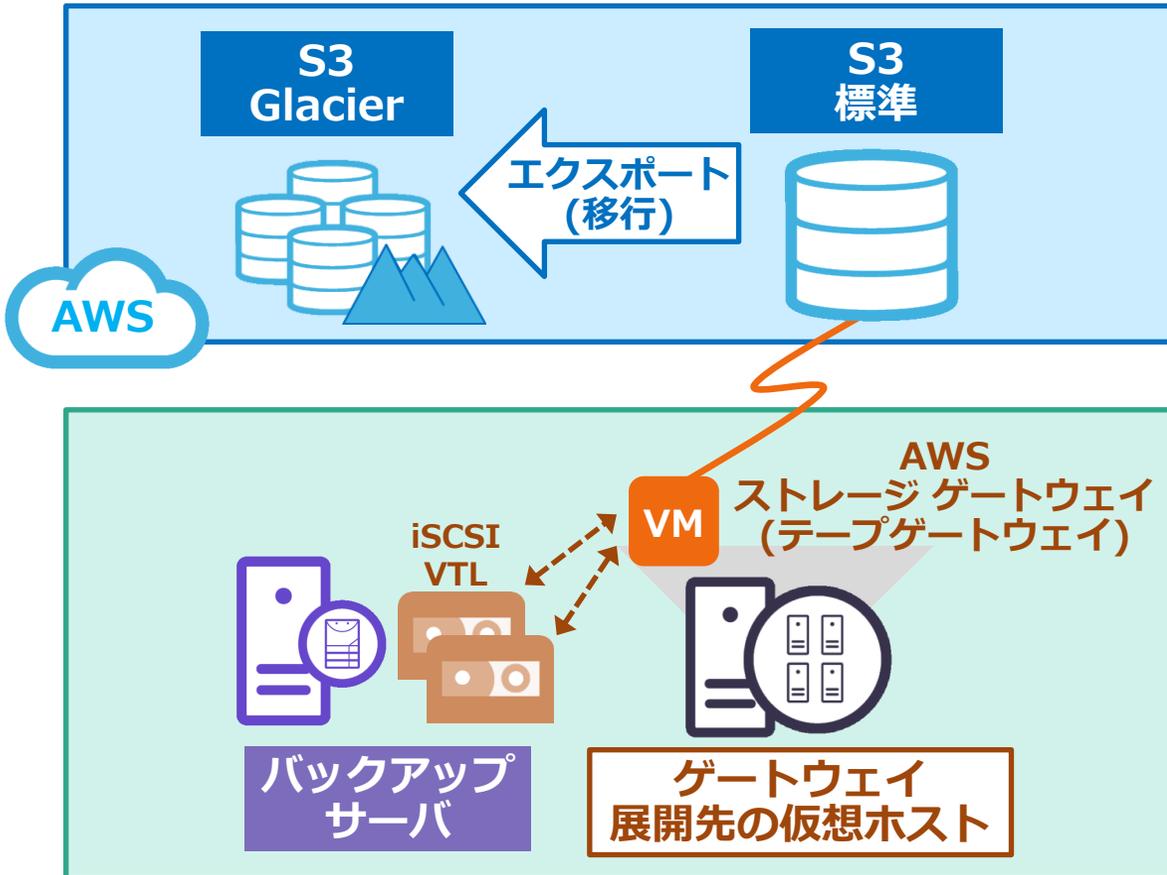


クラウド ストレージは動作要件掲載の認定済ストレージから選択 (AWS S3, Microsoft Azure, 国内クラウド ベンダのストレージ)



# クラウドでのテープ運用を実現 (AWS ストレージ ゲートウェイ\*)

## オンプレミスでのテープ運用そのままにバックアップデータをクラウドへ保管



差分/増分バックアップで  
AWSの利用料金を削減

オンプレミスと同じテープ運用ならではの  
スケジュールごとの保存期間設定

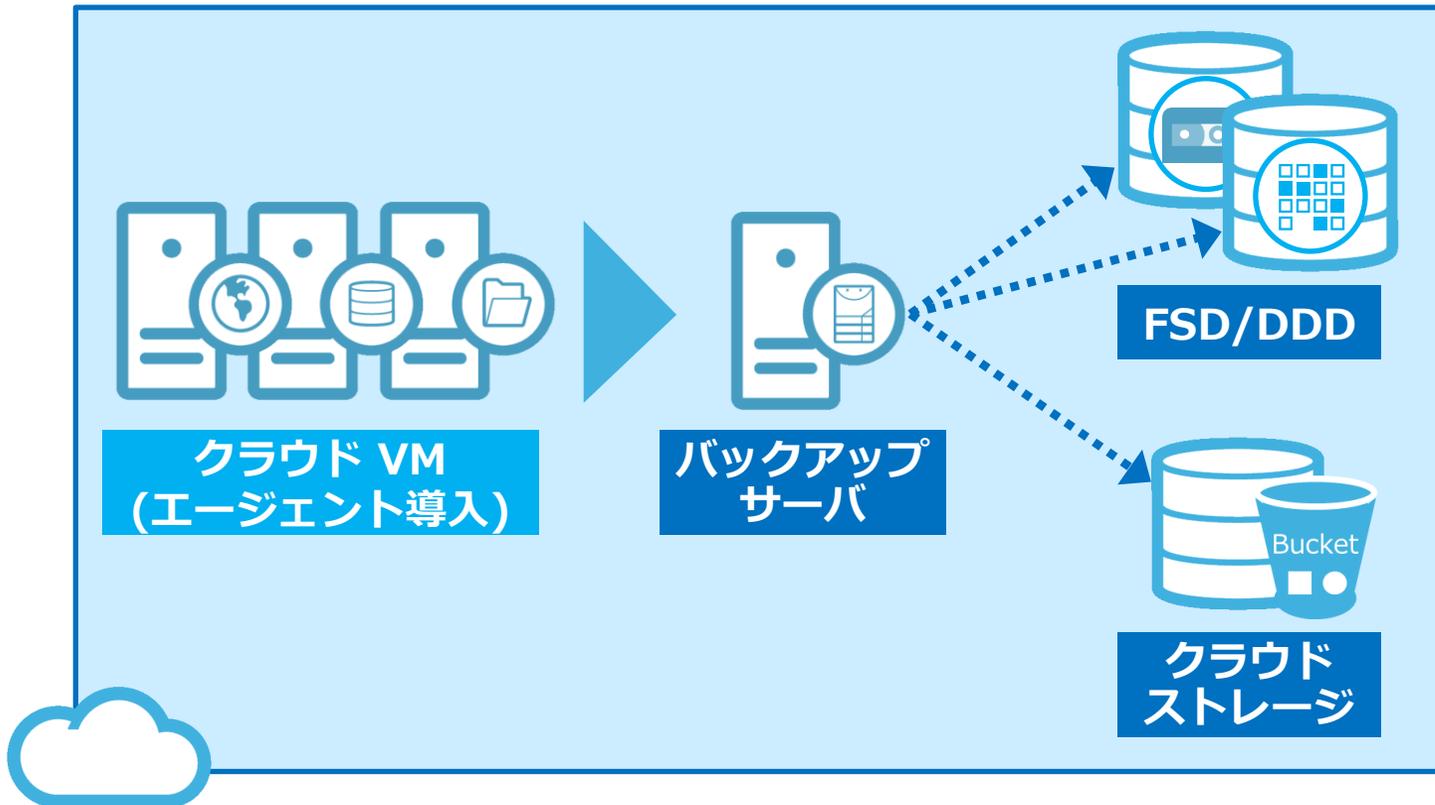
テープのエクスポートで価格の安い  
S3 Glacier / S3 Glacier Deep Archive  
に移行

※ ファイル ゲートウェイやボリューム ゲートウェイは未サポート



# データ保護が必須となるクラウド VM をバックアップ

## すべてのクラウド サービスをサポート\*1



データ損失から簡単に復旧

オンプレミスと同じ操作で  
管理工数を削減

仮想のライセンス適用\*2で  
導入コストを削減

\*1 Microsoft Azure 環境の[サポート製品](#)、AWS およびその他クラウド環境の[サポート製品 \(英語KB\)](#) \*2 Agent for Virtual Machines Bundle を適用



# Arcserve Backup オプション製品



# バックアップ サーバの機能を補強するオプション製品群

## 復旧機能の強化

### Disaster Recovery Option

システム復旧の高速化と手順の簡素化

## ツール機能の強化

### Enterprise Module

イメージでの高速バックアップ、  
raw バックアップ、メディア管理など

### NDMP NAS Option

NDMP プロトコルによるNASバックアップ

## 管理機能の強化

### Central Management Option

複数のバックアップ サーバの一元管理

### Global Dashboard

拠点間のバックアップ サーバの一元管理

## 大規模環境への対応

### Tape Library Option

マルチ ドライブ搭載のライブラリ制御

### SAN Option

SAN (FC / IP-SAN) 共有のテープ装置制御



# Disaster Recovery Option (DRO) のメリット

1  
復旧時間を  
大幅に短縮

OS やセキュリティ パッチ/ソフトウェアの導入不要  
システム復旧を開始したら後は終わるのを待つだけ！

2  
超簡単な  
復旧手順

ウィザードによる簡単操作で作業ミスから解放

3  
工数削減

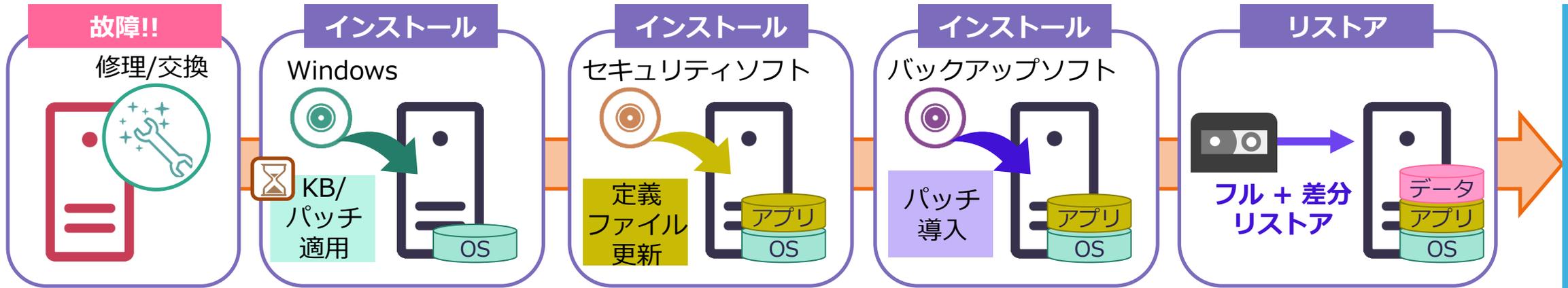
簡単な操作による手順書作成時間の短縮



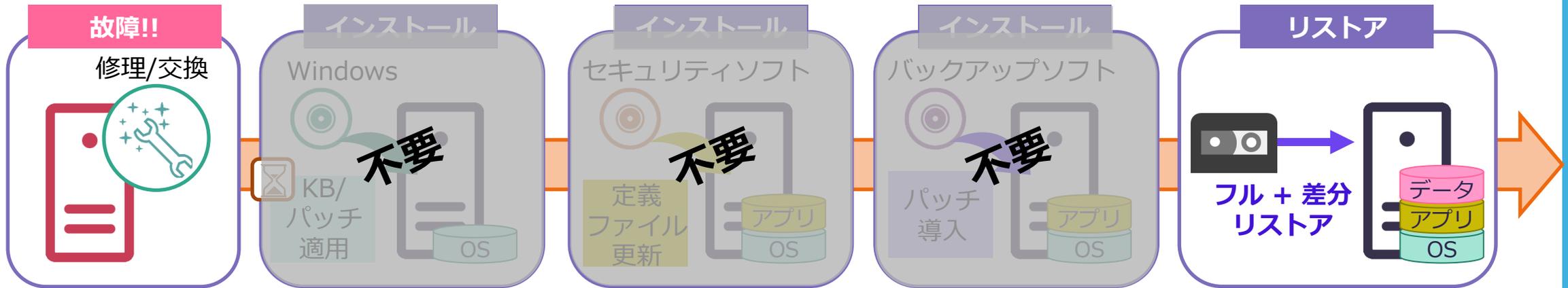


# DROの復旧で手順を簡素化 / 間違いを防止

一般のサーバ復旧



DROのサーバ復旧



復旧



# 付録 1

## Arcserve Backup の購入方法



# 購入方法 1: ベース製品/オプション/エージェント の必要本数を購入

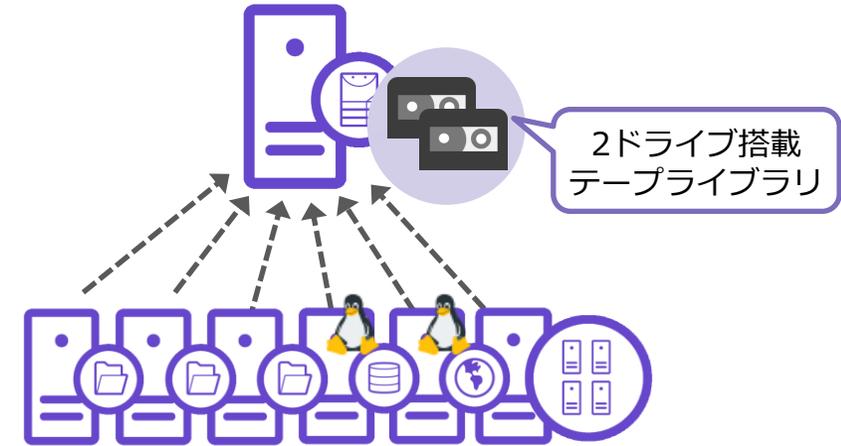
## Arcserve Backup ベース製品 (バックアップ サーバ)

オプション

Central Management Option	Global Dashboard
Disaster Recovery Option	Tape Library Option
SAN Option	SAN Secondary Server Bundle
Enterprise Module	NDMP NAS Option

エージェント

Client Agent for Windows	Client Agent for Linux
Agent for Virtual Machines	VM Agent per host
Agent for Open Files	Agent for MS SQL
Agent for MS Exchange	Agent for MS SharePoint
Agent for Domino	Agent for Oracle for Windows
Agent for Oracle for Linux	

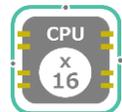
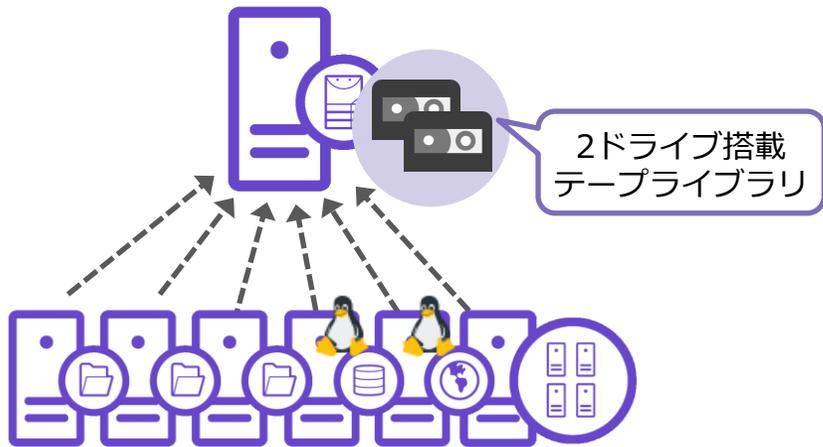


購入製品例	数
ベース製品 (バックアップ サーバ)	1
Disaster Recovery Option	1
Tape Library Option	1
Client Agent (Windows or Linux)	5
Agent for Open Files	3
Agent for Oracle for Linux	1
VM Agent per host	1

\* 1年～5年のメンテナンス付の「ライセンスプログラム製品」と、メンテナンス不要の「パッケージ製品」から選択 (詳細なライセンス数は「[ライセンスガイド](#)」参照)



# 購入方法 2 : Arcserve UDP Premium Edition として購入



各サーバの実装CPU数の例:  
 仮想ホストのみ 2 CPU、他は 1 CPU  
 各CPU: 16コア搭載  
 ※ Arcserve UDP ではコア数はカウントしません

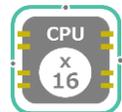
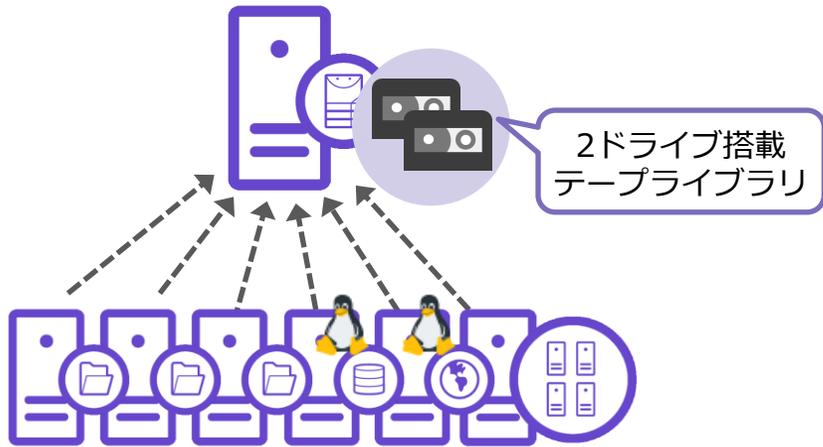
Arcserve UDP の機能 (一部抜粋版)	Advanced	Premium
イメージバックアップ	○	○
VSS ライタ方式のアプリケーション オンラインバックアップ	○	○
ベアメタル復旧 (他の機種への復旧含む)	○	○
仮想環境のエージェントレス バックアップ (vSphere/Hyper-V/AHV)	○	○
仮想スタンバイ / インスタントVM / アシュアード リカバリ	○	○
アシュアード セキュリティ スキャン		○
<b>Arcserve Backup 全機能 / 全オプション / 全エージェントの利用</b>		○
Arcserve Replication ファイルサーバ専用版 (1ライセンス)		○



		括弧()内は税込み価格	
Arcserve UDP [CPU ソケット単位]	数	1年メンテナンス付価格 [2025年5月受注分迄]	1年メンテナンス付価格 [2025年6月以降]
<b>Premium Edition</b>			
バックアップ サーバ x 1CPU 仮想ホスト x 1台 x 2CPU 他サーバ x 5台 x 1CPU	8	¥297,000 (¥326,700)	¥387,000 (¥425,700)
<b>合計</b>		<b>¥2,376,000 (¥2,613,600)</b>	<b>¥3,096,000 (¥3,405,600)</b>



# 購入方法3: サブスクリプションで初期導入コストを抑えて購入



各サーバの実装CPU数の例:  
 仮想ホストのみ 2 CPU、他は 1 CPU  
 各CPU: 16コア搭載  
 ※ Arcserve UDP ではコア数はカウントしません

括弧()内は税込み価格

Arcserve Backup 製品 の場合	数	1年メンテナンス付価格 [2025年5月受注分迄]	1年メンテナンス付価格 [2025年6月以降]
ベース製品 (バックアップ サーバ) with Disaster Recovery Option	1	¥281,000 (¥309,100)	¥366,000 (¥402,600)
Tape Library Option	1	¥179,000 (¥196,900)	¥233,000 (¥256,300)
Client Agent (Windows or Linux)	5	¥70,300 (¥77,330)	¥92,000 (¥101,200)
Agent for Open Files	3	¥126,000 (¥138,600)	¥165,000 (¥181,500)
Agent for Oracle for Linux	1	¥179,000 (¥196,900)	¥233,000 (¥256,300)
VM Agent per host	1	¥253,000 (¥278,300)	¥330,000 (¥363,000)
<b>合計</b>		<b>¥1,621,500 (¥1,783,650)</b>	<b>¥2,117,000 (¥2,328,700)</b>



括弧()内は税込み価格

Arcserve UDP [CPU ソケット単位]	数	1年サブスクリプション価格 [2025年5月受注分迄]	1年サブスクリプション価格 [2025年6月以降]
Premium Edition バックアップ サーバ x 1CPU 仮想ホスト x 1台 x 2CPU 他サーバ x 5台 x 1CPU	8	¥101,000 (¥111,100)	¥132,000 (¥145,200)
<b>合計</b>		<b>¥808,000 (¥888,800)</b>	<b>¥1,056,000 (¥1,161,600)</b>

\*サブスクリプションはメンテナンスを標準装備



# 付録 2

# Arcserve Backup 19.0 新機能



# Windows Server 2022/2025 対応

## Datacenter: Azure Edition を含むすべてのエディションに対応

### Windows Server 2022/2025 対応製品

- Arcserve Backup ベース製品
- 各オプション製品
- Client Agent for Windows
- Agent for Open Files
- Agent for Virtual Machines  
(VM Agent per Host)
- Agent for Microsoft SQL

### Azure Edition の対応製品

- Arcserve Backup ベース製品
- Central Management Option
- Enterprise Module
- Global Dashboard
- Client Agent for Windows
- Agent for Open Files
- Agent for Microsoft SQL



\* 詳細な対応製品や制限事項などは動作要件や注意制限事項を参照



# CentOS 後継として期待される Linux OS への対応

## サポートの終了した CentOS のデータ移行ソリューションとしても利用可

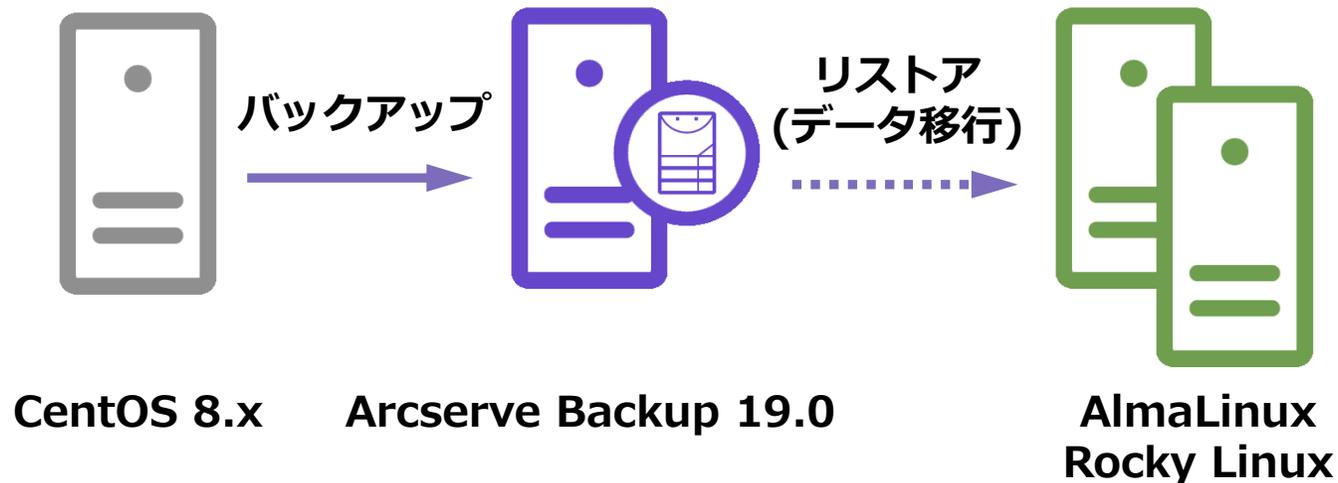
- AlmaLinux 8.x / 9.x 対応
- Rocky Linux 8.x / 9.x 対応

### Arcserve Backup を使うメリット

マネージャ画面で管理  
(スケジュールやステータスなど)

実行前と実行後のコマンドを  
スクリプトで定義可

フル / 増分バックアップで  
移行前の切り替え時間を短縮





# おもな OS / アプリケーションへの対応 (仮想/Windows 環境)

## Agent for Virtual Machines

- vSphere 8.0 ~ 8.0 Update3\*1

## Agent for Microsoft SQL

- SQL Server 2022\*2

## Agent for Microsoft SharePoint

- SharePoint Server 2019
  - ✓ 対応OS: Windows Server 2016/2019

## Agent for Lotus Domino (HCL Domino)

- Domino 12.0.1
  - ✓ 対応OS: Windows Server 2019
- Domino 12.0.2

## Agent for Oracle

- Oracle DB 19c (CDB/PDB, RAC\*3 含む)
  - ✓ 対応 OSに Windows Server 2022 を追加
  - ✓ RAC\*3 追加 (2024.09.27)
- Oracle DB 21c (CDB/PDB, RAC\*3, SEHA 含む)
  - ✓ 21c 追加 (2024.09.27)

詳細な要件や最新の対応状況は動作要件を参照ください。

<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-Backup-19-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

\*1 8.0.2 と 8.0.3 はパッチモジュール (P00002763) で対応 \*2 パッチモジュール (P00002908) で対応 \*3 Oracle RAC の共有記憶域は ASM をサポート



# おもな OS / アプリケーションへの対応 (Linux/UNIX\*環境)

## Client Agent for Linux

- Red Hat Enterprise Linux 9.x
- SUSE Linux 15.x
- Oracle Enterprise Linux 8.x
- AlmaLinux 8.x, 9.x
- Rocky Linux 8.x, 9.x

## Agent for Oracle (Linux)

- Oracle DB 19c (CDB/PDB, RAC\*<sup>1</sup> 含む)
- Oracle DB 21c (CDB/PDB, RAC\*<sup>1</sup>, SEHA 含む)
  - ✓ 対応OS: RHEL 8.x, Oracle Linux 8.x など

## Agent for Oracle (UNIX)

- Oracle DB 19c (CDB/PDB 含む)

詳細な要件や最新の対応状況は動作要件を参照ください。  
<https://support.arcserve.com/s/article/Arcserve-Backup-19-Software-Compatibility-Matrix?language=ja>

\* UNIX 環境は既存のお客様のみサポート (2026年4月末サポート終了) \*<sup>1</sup> Oracle RAC の共有記憶域は ASM をサポート

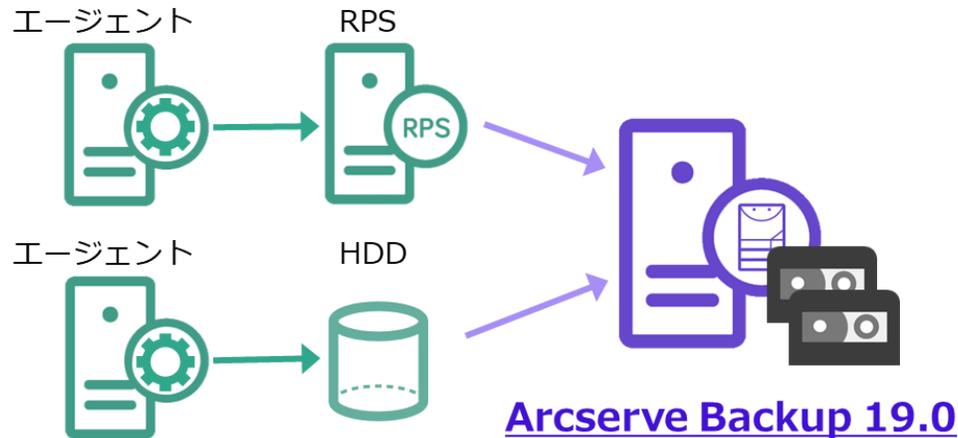


# Arcserve UDP 最新バージョンとのテープ連携に対応

## Arcserve UDP のバックアップ データをテープに保管 (同居可)\*

- テープへのコピー タスク: Arcserve UDP コンソールでプランにタスクを追加
- Lite Integration: Arcserve Backup 側で Arcserve UDP のバックアップ データを選択

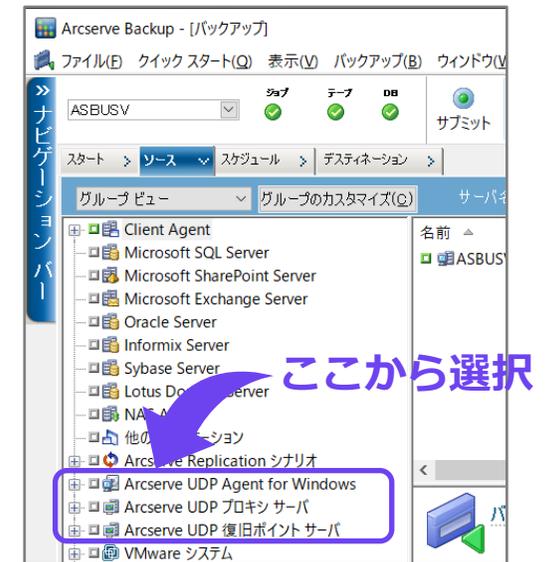
### Arcserve UDP 8.1/9.x/10.0



### テープへのコピー タスク



### Lite Integration



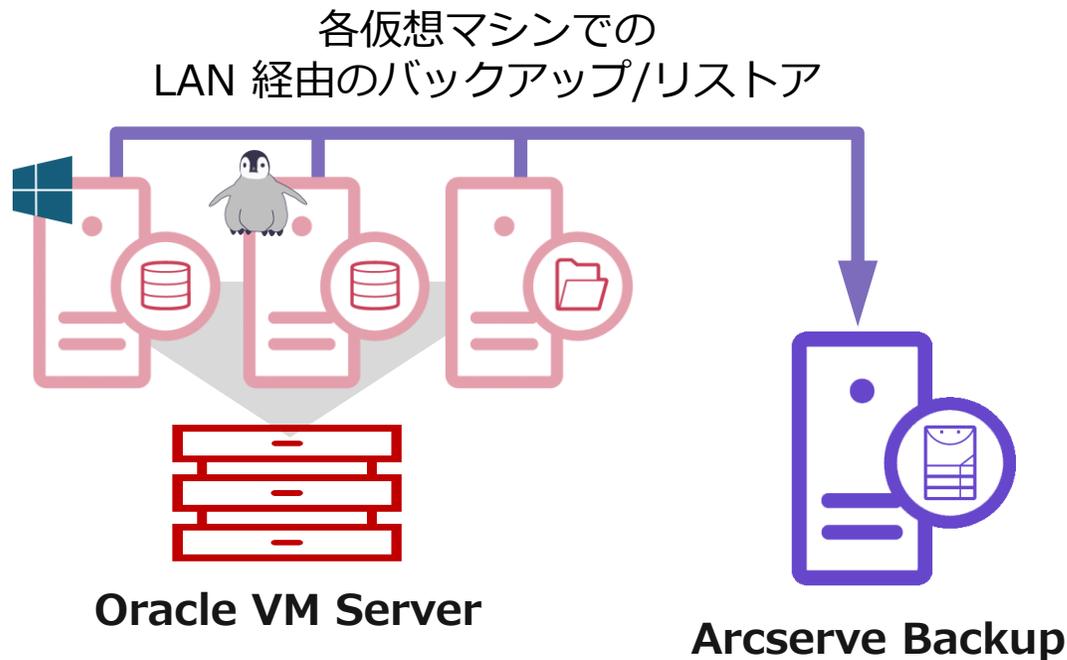
\* Arcserve UDP のバージョンによって対応パッチを適用 (必要なパッチ情報は Arcserve Backup [動作要件](#)参照)

\* Arcserve UDP 8.1 との組み合わせの場合は、Lite Integration のみサポート



# 仮想化環境の対応強化: Oracle VM Server for x86\*

## エージェントベース (物理サーバと同じバックアップ方法) をサポート



Windows や Linux 仮想マシンの  
Oracle DB をバックアップ

他の保護すべき対象ノードと  
バックアップ システムを統一

バックアップ サーバ機能を  
仮想マシンに導入可

\* Arcserve Backup 18.0 でも 2022年1月よりサポート開始

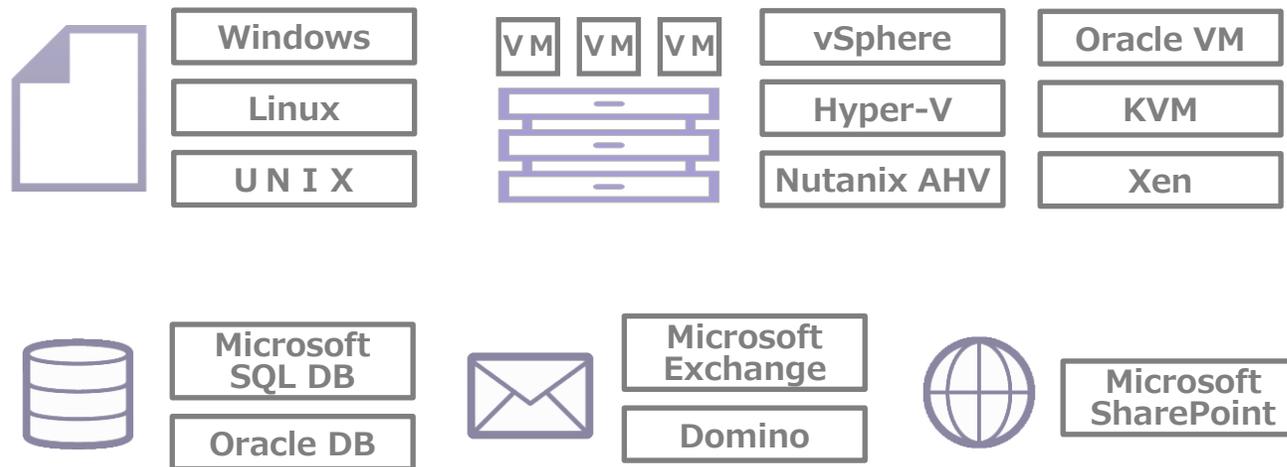


# LTO-9 テープ装置への対応\*

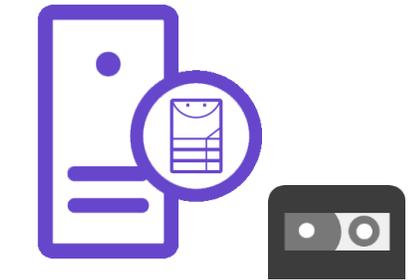
## 非圧縮 18TB のテープで大容量データを 1 巻に収納

強固なランサムウェア対策として WORM (Write Once Read Many) にも対応

### 各種エージェント製品



### バックアップ サーバ



LTO-9 テープ装置

\* 利用可能なテープ装置は認定デバイスリストを参照 (Arcserve Backup 18.0 でもパッチモジュール: P00002461 で対応)



# Arcserve Backup デフォルト DB のバージョン変更

## SQL Server 2019 Express Edition を採用

アップグレード インストールでも SQL Server 2019 Express にバージョンアップ\*

### Arcserve Backup 旧バージョン

(SQL Server 2014 Express)



### Arcserve Backup 19.0

(SQL Server 2019 Express)



\* 手動でアップグレードの選択も可 (この場合は Arcserve Backup 19.0 利用前に SQL Server 2019 Express Edition を導入)



# 導入ソフトウェア更新によるセキュリティ強化

## 新しいバージョンでサードパーティ コンポーネントを導入

サードパーティ コンポーネント	Arcserve Backup 18.0	Arcserve Backup 19.0
Apache (Tomcat)	9.0.13	9.0.58
Java SE Runtime Environment (Open JRE)	1.8.0_192	1.8.0_292
Log4j	1.0	2.17.1
.Net Framework	4.5.1	4.8
OpenSSL	1.0.2m (FIPS 2.0.10)	1.0.2u (FIPS 2.0.16)
Visual C++ Redistributable	2010	2019 (2015-2019)
VMware Virtual Disk Development Kit (VDDK)	6.7 (6.7.8535999)	7.0 Update 2



# 繰り返し見れるハンズオンセミナー動画コンテンツ

## Arcserve Backup 入門コース (100分)

## Disaster Recovery Option コース (90分)

### セミナーコンテンツ例

1. 概要と導入

2. 復旧用のバックアップ

3. サーバ復旧

4. ポイントと留意事項

### 申込ページ

<https://www.arcserve.com/jp/web-free-hands-on>

arcserve®

#### Web版 無償ハンズオンセミナー

【無償ハンズオンセミナーを「Webセミナー」として開催中！】

実際に構築作業を控えているエンジニアの皆様から「簡単だった！」と好評頂いている無償ハンズオントレーニングの内容をそのままに、ご自席で、いつでも視聴いただけます。ぜひご参加ください。

無償トライアル

- Arcserve UDP <前編> (所要時間約1時間40分) [お申込はこちらから](#)
- Arcserve UDP <後編> (所要時間約2時間30分) [お申込はこちらから](#)
- Arcserve UDP for Linux (所要時間約2時間30分) [お申込はこちらから](#)

- Arcserve Replication/HA <前編> (所要時間約2時間40分) [お申込はこちらから](#)
- Arcserve Replication/HA <後編> (所要時間約1時間25分) [お申込はこちらから](#)

- Arcserve Backup 「入門コース」 (所要時間約1時間40分) [お申込はこちらから](#)
- Arcserve Backup Disaster Recovery Option 「Windowsの復旧」 (所要時間約1時間30分) [お申込はこちらから](#)



## 製品情報とお問い合わせ窓口



**Arcserve ポータルサイト** : [arcserve.com/jp](https://www.arcserve.com/jp)

カタログセンター (カタログ、技術資料: スケジュール設定例, バージョン比較など)

<https://www.arcserve.com/jp/jp-resources/catalog-center>

Arcserve カタログセンター

検索



**Arcserve ジャパン ダイレクト** (ご購入前のお問い合わせ窓口)

例: 「必要なライセンスは?」、「XXXをサポートしますか?」 等等



フリーダイヤル: **0120-410-116**

(平日 9:00~17:30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます)



Webフォーム: <https://www.arcserve.com/jp/contact-us>



メールアドレス: [JapanDirect@arcserve.com](mailto:JapanDirect@arcserve.com)